

平成 26 年度継続課題に係る中間評価書

- 研究機関 : KDDI(株)、(財)九州先端科学技術研究所、
(株)セキュアブレイン、横浜国立大学、(株)KDDI研究所、
ジャパンデータコム(株)
- 研究開発課題 : 国際連携によるサイバー攻撃の予知技術の研究開発
- 研究開発期間 : 平成 23 ～ 27 年度
- 代表研究責任者 : 水本 政宏

- 総合評価 : 適 (適／条件付き適／不適の3段階評価)
(評価点 20点／ 25 点中)

(総論)

引き続き研究開発を推進することが適当である。なお、サイバー攻撃の状況により、必要に応じて本研究開発の対象領域を広げることが求められる。

(コメント)

- 必要に応じて、対象領域を広げることが求められる。

(1) 現在までの研究開発の目標達成(見込み)状況

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点4)

(総論)

学術的成果がやや少なく、一部では遅れが見られるものの、実環境での検証等の実用性の高い成果が期待される活動を行っている。

(コメント)

- 実環境での検証を行っており、実用性の高い成果が期待される。
- 一部では遅れが見られるが、新たな脅威の出現を想定した柔軟な方式につながるようにすることが望まれる。
- 論文等の学術的成果がやや少ない。学術的貢献についても努力して欲しい。

(2) 現在設定されている最終目標への到達可能性

(5～1の5段階評価) : 評価4

(総論)

国際連携の目標達成に不透明さがあるものの、目標を明確化し成果として意義のあるものとなるよう舵取りをしている。

(コメント)

- 国際連携が十分に達成できるかが不透明である。
- 「予知」＝「予兆」と目標を少し明確化し、T-ISAC 等への情報提供も考え始めている。意義のある成果の方向を考え始めていることを評価した。

(3) 現在設定されている最終目標の妥当性

(5～1の5段階評価) : 評価3

(総論)

以前より明確にされているものの国際連携の意義が依然として分かりにくい。全体の統合されたシステムになるかという点も疑問がある。

(コメント)

- 全体が1つのシステムとなるかが疑問。
- ダークネットの限界が気になる。
- 国際連携については、まだ意義が分かりにくい。更に明確化することを望む。

(4) 研究開発実施計画

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点4)

(総論)

おおむね全体スケジュール通り進んでいる。全体の統一感を出せるように工夫すべき。

(コメント)

- 全体の統一感が薄い。
- おおむねスケジュール通りに進んでいる。

(5) 実施体制

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点4)

(総論)

十分な実施体制である。課題間の連携が形成され始めているようであるが、更なる連携への努力を望む。

(コメント)

- 十分な体制となっているが、連携について不明確。
- 課題間の連携が形成され始めているように感じた。更なる努力を望む。

(6) 研究開発の成果展開について

(5～1の5段階評価) : 評価3

(総論)

研究開発の性質上難しい部分があるのは理解するが、成果展開の方法を考えていく必要がある。

(コメント)

- 秘匿性が求められるため仕方ないが、成果の一般への効果が分かりにくい。
- 特許に限らず、成果展開が必要。

(7) 当該年度における研究資金使用状況

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点4)

(総論)

適切に執行されている。

(コメント)

- 適正に組まれている。
- 普通。

(8) 翌年度における予算計画

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点4)

(総論)

国際連携に十分かは不明確ではあるが、予算計画として適正である。

(コメント)

- 適正であるが、国際連携に十分かは不明確。
- 普通。